古田史学の会　特集

「東日流外三郡誌の逆襲」出版記念講演会

青森で古賀達也代表

古田史学の会代表の古賀達也氏は8月30日、八幡書店から「東日流（つがる）外三郡誌の逆襲」を発刊した。これに伴い青森県弘前市下白銀町の弘前市立観光館で9月27日、同書の出版記念講演会が開催された。当日の様子などを紹介する。

岡田華子さん（立憲民主党・青森３区、写真左）と古賀達也氏

古賀氏は本著について冒頭で次のように述べている。

青森の「和田家文書」真偽巡り

史料価値を明確に

東日流外三郡誌を学問のステージへ―和田家文書研究序説―

古田史学の会代表　古賀達也

青森県五所川原市飯詰の和田家に、先祖より受け継いだ、あるいは山中より発見した多くの文書遺物がある。文書群は「和田家文書」と称され、そこには津軽東日流の古代から近代に至る伝承などが記されている。その文書群の一つ、『東日流外三郡誌』は昭和五十年に『市浦村史資料編東日流外三郡誌』として刊行され、脚光をあびた。本書はその「和田家文書」の史料価値を明らかにし、次世代へ研究のたすきを繋（つな）ぐことを願い記したものである。また、歴史資料としての考察のほか、「和田家文書」を取り上げるにあたって必ず記録せねばならない、今日にまで至る「偽作論」についても、その論争の当事者のひとりとしてわたしはここで改めて筆を取りたい。

わたしは一九九四年五月より四度にわたり、古田武彦氏（一九二六～二〇一五年）とともに現地調査に赴き、「和田家文書」に接することができた。その後も現地調査を続け、「和田家文書」について多くの知見を得た。そして何よりその研究の道中で、この文書と歴史に誠実に向き合わんと前を向き続けた人たちの想（おも）いを、過分ながら託されているという覚悟を決めている。現在もなお調査研究途上ではあるが、この三十年の総決算として本書を発刊することで、「和田家文書」への正当な評価と学問研究に貢献できれば幸いである。

一「和田家文書」の大分類

和田家が収蔵していた文書は、今では散逸もあり、正確な数や内容は不明となったが、成立時期や性質により概ね次のように分類することが可能だ。

（A）江戸期（天明寛政年間頃から幕末）に成立した文書類。（「寛政原本」とも呼ばれている）

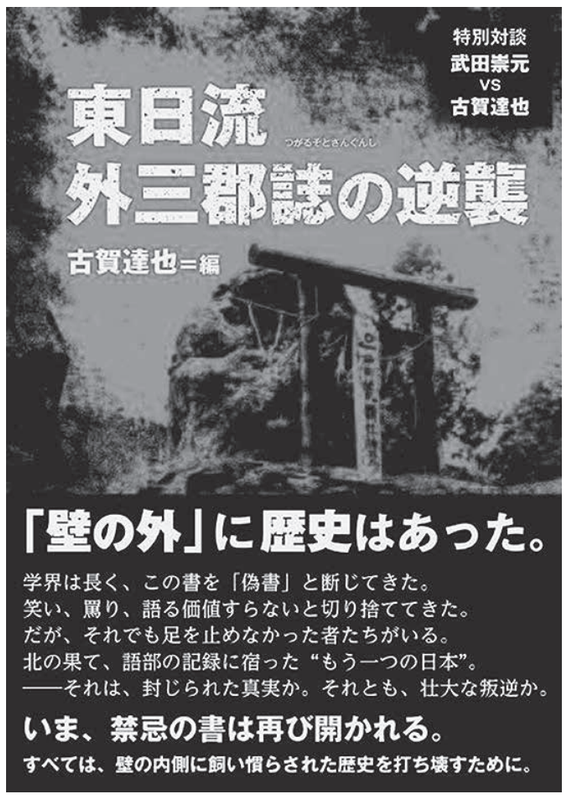
（B）明治・大正期（一部は昭和初期）に再写された（A）の写本。

（C）江戸期の「参考書」類。

（A）作成時の参考史料と思われるもの。

（D）明治・大正期に成立した文書類、あるいはその写本。

…（以下略）



「東日流外三郡誌の逆襲」

QRコード。「東日流外三郡誌の逆襲」出版記念講演。2025年９月27日に開催された「東日流外三郡誌の逆襲」出版記念講演会の様子

講演会であいさつする竹田侑子さん（秋田孝季集史研究会・会長）＝9月27日

〈目次〉

第1章　東日流の新時代を拓く／第2章　「和家文書」を伝えた人々／第3章　『東日流外三郡誌』真作の証明―「寛政宝劍額」の発見―／第4章　真実を語る人々／第5章　知的犯罪の構造―偽作論者の手をめぐって―／第6章　実在した「東日流外三郡誌」編者―和田長郎吉次の痕跡―／第7章　封印された「埋蔵金」記事―「東日流外三郡誌」諸本の異同―／第8章　「和田家文書」に使用された和紙／第9章　「和田家文書」裁判の真相―付：仙台高裁への陳述書2通／第10章　「東日流外三郡誌」の証言―令和の「和田家文普」調査／第11章　新・偽書論「東日流外三郡誌」偽作説の真相／第12章　石塔山レポート封印された遺跡と不可解な痕跡／第13章　役の小角史料「銅板銘」の紹介／第14章　和田家文書の戦後史／第15章　和田家文書デジタルアーカイブへの招待／第16章　宮沢遺跡は中央政庁跡／第17章　天台寺はかつて浄法寺だった／第18章　平泉中尊寺の謎と仏頂寺／第19章　「和田家文書」から日蓮聖人の母を探る／第20章　浅草キリシタン療養所と「和田家文書」／第21章　浄土宗の『和田家文書』批判を札す―金光上人の入寂日を巡って―／第22章　『東日流語部録』が明かす三つ鳥居の謎―石浦神社から大神神社へ／第23章　田沼意次と秋孝季・in『和田家文書』／第24章　秋田実季の家系図研究

古賀達也氏のフェイスブックから

TatuyaKoga
10月4日11：58・2025／10／02
津軽の政治家の皆さんとの一夕

昨晩は弘前市議・青森県議の有志（超党派）の皆さんに、「東日流外三郡誌」に記された興国の大津波が歴史事実であることを証明した地質学論文、箕浦幸治・中谷周「津軽十三湖及び周辺湖沼の成り立ち」『地質学論集』第36号（1990年）について説明し、「十三湖水戸口に周辺での試錐調査からは、この時期巨大津波の襲来によるものと思われる海岸環境の劇的な改変が示唆される。」「この時期に巨大津波を伴う地震が青森県西方沖で発生したものと判断する」と結論した文部科学省地震調査委員会による次の報告書を紹介しました。

興国の大津波は歴史事実

「1341年10月31日（1341年は興国二年。興国は南朝の年号…古賀注）『東日流（つがる）外三郡誌』によれば、朝地震とともに約9mの津波が津軽半島の十三湊を襲い2万6000名が溺死したとある。（渡辺、1985）。同歴史文書の信憑性について疑問視する人もおり、第二版の渡邉（1998）からは同地震の記述が削除されている。然るに、十三湖水戸口に周辺での試錐調査からは、この時期巨大津波の襲来によるものと思われる海岸環境の劇的な改変が示唆される（箕輪・中谷、1990）。本報告では、これらに中嶋・金井（1995）によるタービダイト（海底堆積物…古賀注）の解析結果も加えて比較検討し、歴史記録からは信憑性に欠けるものの、この時期に巨大津波を伴う地震が青森県西方沖で発生したものと判断する。」

『日本海東縁部の地震活動の長期評価』文部科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会、2003年。そして最後に、「歴史地震学、文献史学、地質学のそれぞれの研究者がそれぞれの理由に基づいて、興国の大津波を歴史事実とする判断に至っています。貴重な現地伝承を無視することなく、数百年に一度の大地震や大津波に、政治の力で備えていただきたい。津軽の先人が伝えた興国の大津波伝承を現代を生きる津軽の人々に知らせていただきたい。」と訴え、話を締めくくりました。

その後も参加者から請われて、わたしの専門分野の化学にまで話題は広がり（PET樹脂〔ポリエチレンテレフタレート〕リサイクルにおける再生エネルギー効率について・白色LED光成分による活性酸素発生メカニズムの人体への影響について・福島原発爆発時の原研OBから聞いた逸話・他）、議員の皆さんとの宴は夜の10時過ぎまで続きました。

それは、青森県の若い政治家の皆さんとの、とても楽しく有意義な一夕でした。素敵な出会いの場を作っていただいた石岡千鶴子さん（弘前市議、秋田孝季集史研究会・副会長）に深く感謝します。

（省略）

TatuyaKoga
10月4日11：40・2025／10／01
陸奥新報に出版記念講演会の記事

弘前市に来て六日目です。昨日は宮下宗一郎・青森県知事を表敬訪問し、短時間でしたが有意義な懇談ができました。若さと行動力が魅力的な知事さんでした。知事との懇談後、青森県の文化財保護課で石塔山関連遺跡の調査などについて相談しました。

9月27日に開催された『東日流外三郡誌の逆襲』出版記念講演会の記事が、今朝の陸奥新報にカラー写真付きで掲載されました。講演会当日は、ご来場いただいた方々へのご挨拶や記念写真撮影、著書へのサインなどで忙しく、新聞記者さんにはご挨拶できないままでした。記事にしていただき、ありがとうございます。

また、ご多忙にもかかわらず講演会でご挨拶いただいた衆議院議員の岡田華子さん（立憲民主党・青森三区）には改めて御礼申し上げます。ちなみに岡田さんは『東日流外三郡誌』を持っておられるとのこと。お祖父様から頂いたものとか。不思議なご縁でした。

今日の夕方からは、弘前市議・青森県議・弘前市立図書館の方々に「東日流外三郡誌」を紹介することになりました。こちらは超党派の方々とのこと。当初の予定にはなかったイベントですので、議員さん向けのテーマに変更したパワポ資料をホテルに籠もって作成しました。タイトルは「和田家文書と興国の大津波」です。

大地震や大津波に備えるためにも、「東日流外三郡誌」をはじめ津軽の先人が伝えた現地伝承〝興国元年・二年（1340・1341）の大津波〟が歴史事実であること、〝興国の津波は史実ではなく和田喜八郎氏による偽作〟とする「東日流外三郡誌」偽作キャンペーンが否であることを説明します。

10月1日付の「陸奥新報」記事

「東日流外三郡誌の逆襲」の出版を記念して開かれた講演会

東日流外三郡誌研究の「集大成」

書籍出版記念　古賀さんが講演

東日流外三郡誌の逆襲　弘前

東日流外三郡誌研究の「集大成」

書籍出版記念　古賀さんが講演

「東日流外三郡誌の逆襲」の出版記念講演会が27日、弘前市内で開かれた。編者で古田史学の会代表の古賀達也さんが講演し、これまでの研究の成果や思いを語った。

東日流外三郡誌は、五所川原市の和田喜八郎家から発見されたという和田家文書を代表する文書で、真偽を巡る激しい論争が展開された。本書は偽書とする主張に反論する立場で、長年の研究成果をまとめた。

講演会を主催した秋田孝季集史研究会の竹田侑子会長があいさつ。古賀さんは東日流外三郡誌が世に出た経緯やさまざまな関係者から聞き取りした成果などを豊富な資料とともに説明し「集大成として今回の本を出すまでに30年かかった。この本を出さずに死ぬわけにはいかないと思って書いたが、もっと早く出さなければいけなかった」と本書に寄せる思いを語った。

講演のほか、古賀さんや出版元・八幡書店社主武田嵩元さんらによるトークショーも行われ、会場に集まった市民ら約50人が熱心に耳を傾けた。

（今井珠世）

お知らせ

◆黒石で4、5日にクラフトとフードなどのイベント　黒石市の津軽伝承工芸館は10月4、5日の午前10時～午後4時、クラフト、フード、パフォーマンスを楽しめるイベント「くろいち秋の陣」を開催する。雨天決行。一点物を主体とするハンドメード品が並ぶほか、地元人気店のキッチンカーも来場する。

東日流外三郡誌が世に出た経緯やさまざまな関係者から聞き取りした成果などを豊富な資料とともに説明し「集大成として今回の本を出すまでに30年かかった。この本を出さずに死ぬわけにはいかないと思って書いたが、もっと早く出さなければいけなかった」と本書に寄せる思いを語った。

講演のほか、古賀さんや出版元・八幡書店社主武田嵩元さんらによるトークショーも行われ、会場に集まった市民ら50人が熱心に耳を傾けた。

（今井珠代）